

南山義民の碑 喜四郎子別れの段

あらすじ 紹介



この演目は江戸時代の年貢に苦しむ庶民の生活の様子を切り取った物です。今から約 280 年前。江戸時代。田島のあたりは江戸幕府の領地で南山御蔵入（みなみやまおくらいり）五万石と呼ばれていました。農民は作物が不作の時でも年貢を納めなければならず大変でした。また何より苦しかったのは直轄地のため年貢を直接江戸まで運ばなければならない事でした。



この物語は医者が喜四郎の家を訪ねるところから始まります。貧しい喜四郎の家に往診に行き薬代ももらわず反対に他からもらった薬代を置いて行く医者や、年貢に困って直訴に行く前に母や妻、最後に子供と別れる場面などお見逃しなく！

田島の屋台子供歌舞伎は江戸時代から祇園祭で屋台の上で行われていました。明治時代になり学校制がしかれ子供が夜演じることは好ましくない等の理由で廃止されたということですが、平成 6 年、屋台歌舞伎保存会が発足し子供歌舞伎が復活。この演目は地元南会津に実際にあった話を題材に書かれた「南山義民の碑(みなみやまぎみんのいしぶみ)喜四郎子別れの段」地元の馬場翠園(すいえん・田島、馬場医院の先々代の院長)氏の作です。生の義太夫でお送りいたします。

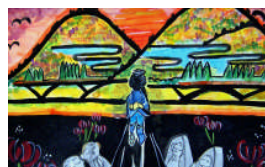
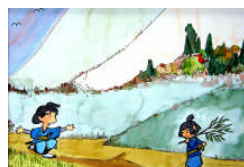
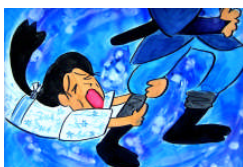
義太夫 室井 一仁 会津大短大 1 年



ある日、南山の農民の一人、喜四郎の家に医者の方良庵が立ち寄り、嫁のおよしの様子をうかがいます。



良庵は母から家の窮状を聞いて薬代ももらわずほかの家からもらった薬代（薬札）を置いていきます。



その頃、窮状を訴える直訴を決意をした喜四郎は家に立ち寄りました。しかしこの当時直訴をすれば自分は打ち首そして家族も同罪になることはわかっていました。家族にも罪が及ばない様、喜四郎は母とおよしに悪態をつき、わざと妻のおよしにもひどい言葉を言い勘当されます。そして親から勘当されたこと、妻と離縁したことを証文に残し出てゆきます。遊びの帰り子供、喜一郎は父の喜四郎と出会います。喜四郎は喜一郎には「佐倉宗吾の芝居をしに江戸へ行く」と言って別れ、直訴に向かいます。

国指定 伊南「大桃の舞台」 "夢舞台公演" 9月8日(土)

役者紹介

小栗山 喜四郎	佐藤 恭香	田島小 3 年
喜四郎の母	渡部 優華	田島小 6 年
喜四郎の妻およし	渡部 花南	田島小 6 年
医師 良庵	佐藤菜々子	田島小 6 年
喜四郎の子喜一郎	渡部 陽向	田島保育園



南会津町「子供歌舞伎を応援する会」作の手作り紙芝居（全 36 枚）の絵よりあらすじをご紹介します。会ではボランティアで紙芝居出前上演もいたします。詳しいお問合せは会長・阿部徳子 09062594270 または町観光係 0241-62-6200 まで。
歌舞伎に興味のある方、子供さん！
観光係まで！